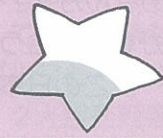


素敵な人
みつけた！

みよし野菜とインタビュー



みよし野菜
ロゴマーク...



三芳やさい



★ 魅力発信 これからの三芳町へ... ～6次産業に向けて～

三芳町には、江戸時代の新田開発によって誕生した循環型農業システムの上富があります。全ての地域において何代もの**培い人**によって丁寧に土づくりされた農地があり、そこで本当にまじめに生産されている野菜を消費者に届けたいと思います。“みよし野菜”がもっと広く認知されるよう、いろいろな機会にいろいろな場所で発信していきます。

6次産業に向けては、みよし野菜を使った加工品の開発、流通など多くの課題もありますが、まずは住民のモチベーションを上げることが重要なと考えます。また常設の土産物ショップ等も必要だと思います。



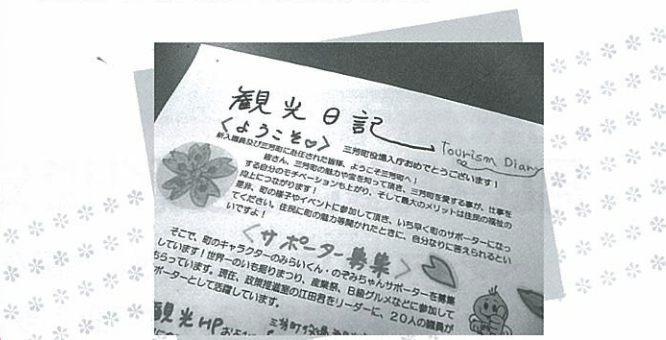
つちかいつちか
★ 培人とは... ★
「培う」とは「土養う」の意。
三芳町では、土を育て、愛情を込めて作物を栽培する農業者を「培人」と呼んでいます。



★ 観光日記...

職員への情報発信をと考え、デジタル化が主流のなかあえて手作りでのPRをしています。一年を通じて三芳町の観光が楽しく伝わればと思い、時期にあったものを定期的に発行しています。日記の内容は、文章は書きとめておいたものやその時の行事などを中心に組み、絵も描きます。

住民の方に向けては、チラシの配布・ホームページやフェイスブック・ツイッター等で常時お知らせをしていますのでご覧ください。多くの方たちに楽しみにして頂けるような「観光日記」になればと考えています。



インタビューを終えて...

● 観光日記のどの号を読んでも、またお話を伺っても佐久間課長の三芳町を見つめるやさしさが伝わってきました。三芳町のまじめな培い人によって生産される野菜たちを6次産業に向けて発展させていきたいという並々な情熱も感じました。もっとお話を聞きたいと思ううちに時間切れとなり残念でなりません。機会があればまたお話を聞かせて頂きたいです。(豊留)

● 初めてお会いした佐久間課長は、女ながらほれほれするような魅力的なハンサムウーマンでした。その仕事の実力と共に、この方なら...という信頼感を持ったのは私だけでなく、委員全ての気持ちだったようで、常にまして発言が活発で紙面に全て収めきれなかったのが残念、笑い渦巻く価値あるインタビューでした。(高橋)

最近、町内だけではなく、町外でも“三芳やさしい”のシールが貼られた野菜を目にします。そして、三芳町のホームページには、“観光情報のページ”があり、観光のFacebookで最近の町の動きが紹介されています。三芳町のことが知られていくのは町民としてとっても嬉しいことです。

発信源は、観光産業課...！
課長として、活躍を始めた佐久間文乃さんにお話を聞きました。



観光産業課長 佐久間 文乃さん

★ 管理職としての役割・部下の育成...

課長としての責任・決断があり、時に孤独にもなります。職員の心身は常に気になり、日々の顔色等も意識しています。仕事に関しては、あえて叱咤することもあります。自分は悪役でよいと考えています。今まで関わった部署で「この人嫌だなあ～」と思ったことがなかったのは幸せなこと。自分の部下は家族のようで大好きですが、どちらかという怖い課長ではないかと思っています。

「行政での女性の視点」も重要な課題でもあり、リーダーシップをとり女性職員の意見等をまとめることも必要に感じます。また、家庭状況・職場環境等の問題も抱えていると思うが多くの女性に管理職としての活躍を期待したいです。

部下の育成というより心にかけていることは、「心おこし」です。町民のために個々を成長させること・自発的に考える力などを引き出せるサポートをしています。

★ 観光産業課...って！

観光産業課の誕生は平成24年4月。職員9名。(平成25年度) 大きな観光の目玉がない三芳町をどう売り出すか？から始まりました。

観光名所はないが、町の約80%を占める農業振興地域・自然が宝の町・町民が愛してやまない町など特色を生かし、富の川越いも他みよし野菜のブランド化、若手農業後継者の力を借り“産業祭”“世界一の芋掘りまつり”等の事業を行う。一方で公共交通機関の不便さはあるがマイナスをプラスに転換し情報発信をしています。

また、「東京に一番近い町」という立地条件をもとに、池袋を起点に三芳町を知ってもらうため“みよし野菜”を都内へ出店する取り組みも広げ、関越自動車道三芳PA・パーサル三芳を活用させて頂き、自慢のみよし野菜で埋め尽くすことを視野に入れ、地域関係者と共に三芳町を売り出し中です。



私の愛する...
観光産業課
スタッフで～あ！



★ プライベート...

家庭と仕事の両立はなかなか難しいこともありますが、出張の多かった同い年の夫は、「子どもたちのために自分が...をする～」という気持ちが強く、忙しい中でも家事・育児にも積極的に関わってくれたこと、互いの両親のサポートもあり、大きな問題もなく今まで仕事が続けられたことにとっても感謝している。子どもたちが成人した現在、共通の趣味(旅行)をすること、地元の混声合唱団でクラシックを歌うことなどで癒しの時間を満喫しています。また、ストレス解消におしゃべりは大変貴重。職場の仲間や退職された先輩方との時間も共有できるような食事等の場も非常に大事なものになっています。

家族・仲間や地域に恵まれて生活できていることを大切に、多くの人との出会いを宝物に日々成長していければ良いと感じています。

